

## 湘南港のあるべき姿 第1回検討懇話会 議事概要

日時:平成 15 年 3 月 4 日 PM:1:30 ~ 3:30

場所:藤沢市産業センター 6F 研修室

- ・ 湘南港は地震時に緊急物資の受け入れ港となっている。これはずっと残しておいてほしい。
- ・ あるべき姿の中に、海難防止・治安維持等の機能も盛り込んでもらいたい。
- ・ 湘南港は県市の防災計画の中で役割を担う立場であるが、もう少し静穏度の高いような港湾にしないと防災上問題がある。できるだけ早く防災拠点としての整備を進めてもらいたい。
- ・ 例えば親水緑地に集まってくるような計画にしないと、なかなか人は集まらない。
- ・ 最初に箱をどうするかを考え方ではなくて、この江の島ヨットハーバーで何が行われるべきなのかというソフトを考えるべき。あるべき姿を議論するときに、湘南港で何を行うべきなのか、どんな活動が行われる方が良いのかを議論した上で、あるべき姿を議論すべきではないか。
- ・ いろんな人が湘南港に触れ合う機会を作るためにも、レストラン機能や物販機能等は必要だろう。湘南港の中で、どんな商業機能が必要だろうということを考えてから、あるべき姿を考えるべきである。
- ・ 江の島は藤沢市にあるので、藤沢市と協力していかなければならないが、湘南港は神奈川県管理であり、行政が2つあるようなイメージを持っている。住民が直接県に働きかけるとするのはちょっと抵抗がある。
- ・ まず住民の人に実際に港の施設を利用できるんだということが周知されないと、なかなか他県からも集客できない。
- ・ 江の島旧島部と湘南港の一体感を考える必要がある。
- ・ 江の島旧島部と湘南港も一緒になって観光に寄与するように、一つになってもらえればと思う。
- ・ 如何に島民と関わることができるか、如何に市民にサービスを提供できるかを考える必要がある。
- ・ ヨットハーバーだけを取り上げて活性化を図るのは無理がある。
- ・ 夜の雰囲気を出す。若い人たちのデートコースになるような湘南港にしてほしい。夜までの開放も含めて、湘南港まで足を伸ばせるような雰囲気作りが必要である。
- ・ 素敵な景色・デザインでできているところに人は集まるので、安全や経済性という観点の他に、若い人がデートしたくなるという視点で物作りをしてもらいたい。
- ・ 防波堤ががちり作ってあるけれども、港としての風景が貧弱だなと思う。
- ・ 海洋少年団がより使えるハーバーにしてほしい。
- ・ 湘南港は、漁港があり、浅瀬がありで多様な利用ができるので、環境教育の拠点、海辺の文化づくりというソフト面の検討もあり、こういうものとあわせた形で、考えていくということも考えられる。
- ・ 湘南港や企業等がもっと PR していくことも重要。もっとヨットレースを誘致したりして存在感を示していくことも重要。
- ・ 今後事業を組み立てていく中では、必ず運営・経営をどう据えるかという議論になるが、大手資本に依存するようなものでは良いものとはならない。
- ・ 規制緩和の視点から、観光特区という考え方も良いのではないか。
- ・ マリーナは、図書館や県民会館、美術館と同じ文化施設であるという、明確な位置づけが必要。そ

の上で、どういう形で運営するか、またどういうサービスが提供できるかという視点を持たないと、うまくいかない。

- ・ 湘南港でも多種のマリンスポーツを考えないと集客は難しいが、一方で規制も厳しくなっていくと思う。上手くミックスしてやっていくことが必要である。
- ・ ハーバーをヨット中心の体質から変えていく必要がある。
- ・ まず、地元の間が良く知っている場所、良く行く場所にして、そこから広げていかないといけない。湘南港という名前を知ってもらわないといけない。
- ・ 地元の方の知名度と認知度のギャップがあるので、名前が一致する形でPRが必要だと思う。
- ・ 正式名称は湘南港でも、愛称や通称を作ってそれで呼んだらどうだろうか。愛称募集をしたらよい。
- ・ すばらしい湘南港を作っても、途中のアクセスが悪ければ問題である。行政の縦割りでやるのではなくて、交通政策の方まで考慮してやっていただきたい。
- ・ 江の島から逗子あたりまで道路を作れば利用者側からは使いやすいと思う。
- ・ 道路が非常に混雑するとの話があるが、これは通過道路ではなく、どん詰まりなので当然である。商業地域なのに施設がないのも当然である。道路がなければ成り立たない。
- ・ 外部から見る緑の島、江の島を長く維持していくということが大事だと思う。昔からの景勝地、自然の島に人工的なものを作ったのだから、もともとあった島に敬意を表する意味でも美しい景色を作らなければいけないと思う。
- ・ コーディネーター等アドバイザー的な役割の先生に統一されたバランスのいい景観を検討していただければよい。
- ・ 緑少ない港を、自然のものを活かして、景観に馴染むようにしてほしい。
- ・ テトラポッドなども問題があるので、これに変わるもので整備できれば、ヨットハーバーらしい景観ができるのではないかと。
- ・ テトラポッドについては研究した方がよい。景観から言えば非常によろしくない。
- ・ 良いものは残し、悪いものは捨てるという考えは非常に良いと思う。
- ・ 若々しいマリンスポーツの湘南港と、歴史と文化の蓄積がある江の島との組合せ・コーディネートの方がこれからの江の島を魅力的にするキーポイントになると思う。
- ・ 経済活性化から考えると、半分ぐらいモーターボートの係留施設にして、保管分類を大きく変えれば収入も増えると思う。
- ・ 江の島で行われているヨットレースが年々少なくなっている。これは湘南港の場合は他のマリーナに比べて規制が多いからである。

## 湘南港のあるべき姿 第2回検討懇話会 議事概要

日時：平成15年4月24日 PM:3:00~4:45

場所：藤沢市総合防災センター6F 第2会議室

- ・ 5つの柱に防災も入れた方が良いのではないか。
- ・ ヨットハーバーとしてのコンセプトを整理する前に、防災拠点としてのきちんとした整理を行政としてやる必要があると思う。昔に比べて、湘南地方の人口というものは相当増えているので、どうゆうタイプにするのか検討しておく必要があると思う。
- ・ 最近、舟運というか、観光船的なものを河川と海岸、あるいは海と島とのネットワークとの中で注目されてきている。国土交通省河川局の中で結構動いているが、こういう可能性についてもぜひ検討していただきたい。
- ・ 湘南なぎさプラン（平成4年3月、県が相模湾における航路事業の可能性についてまとめた構想）の時にやった実験の資料が記録として残っていれば、海上交通の話に役立つと思う。
- ・ 新潟で市民が立ち上げた舟運の会社がある。詳しいことはわからないがそれも参考事例としては役に立つのではないか。
- ・ 海の交通としては、江の島は気象が安定しておらず、条件が悪すぎる。もう少し内海ならば海上交通も定期的にできるが、今の相模湾の状況では定期運航は無理ではないか。
- ・ 東海汽船の大島航路が廃止されたのは、一つは江の島から大島までは非常に遠い、江の島まで来るアクセスは別としても、熱海から行った方が早いということの中で廃止になったのだと思う。また、江の島から熱海までの航路もあったが、利用者が非常に少なく、色々な条件があって廃止された。
- ・ どのようにして外に対してPRしていくか、広報戦略をどのような主体で、整ったプロモーションのしかたというものを今後考えていかなければならないと思う。
- ・ プロモーション戦略というか情報戦略というものを考えなければいけない。情報戦略は素晴らしいことと思うので、是非入れていただきたい。
- ・ 湘南港が海洋文化の拠点という位置づけをするのならば、子供達が海に行ってボートに乗ってみるヨットに乗ってみる、あるいはカヌーを漕いでみるという体験プログラムと一体となって、それと江の島そのものが文化財だと思うので、これと合わせたかたちでうまくプログラムが出来ればおもしろいと思う。
- ・ 江の島ヨットハーバーを中心として、海の体験教育、マリーナ+海岸の総合的な海の体験観光、環境教育ということで、小中学生は、学校にいるなかで一回は何かを体験するというところもあると思う。
- ・ どのようなヨットハーバーを目指すのか、教育文化のハーバーを目指すのか、観光のハーバーを目指すのか、それとも恋人達が来たくくなるような良い景観のハーバーを目指すのか、おおよそのラインがあって、その中で決める必要がある。その辺の整理ができていない。
- ・ アクセスが良くなければ、拠点にはならない。そのような骨、土台がしっかりしていれば、あとからアミューズメント施設とか、教育施設とかは、後付でどんどんつけていけると思う。
- ・ 今度の連休で江の島の灯台がリニューアルされるが、どのくらいの人の流れがあり、どうゆう渋滞のポイントがあるなどが分かると思う。これも参考にすれば、アクセスの改善に役立つのではないか。

- ・ パーキングの空き情報や、渋滞時間の情報などのサインも重要だという気がする。
- ・ 島の許容量を考えると、車を沢山入れるようにすることは良くないと思う。今全国的に歩いて楽しい観光地づくりという事業が展開されているが、まさに江の島のスケールであると、歩いて楽しい島にする必要があると思う。
- ・ 車を入れない江の島もあり得ると思う。やり方は色々あるので、考えてみる価値はあるかと思う。
- ・ レストランとかを沢山つくってあげて、地元の人でも気軽にランチ食べに行けるような環境にするなど、土台から作っていけば後からどんどん肉は付けられると思う。
- ・ すてきなレストランだとか色々あるところに、結構お客さんが行っているような気がする。
- ・ できれば湘南港にカジノを誘致するくらいのことを旗揚げしてもいいのではないか。お台場に負けないくらいのもをつくれれば、小田急電鉄も地下に延ばして、江の島まで線を引くのではないかと思う。
- ・ レストランができればいいというものでもないと思う。
- ・ 江の島を元気にするのに、大型施設を入れるという考え方もあると思うが、私は今あるものに磨きをかけることの方が大事ではないかと思う。江の島の持っている資源を現代にどう活かすのか、どう見せるのか、どう体験させるのか、ということを考えることの方が重要であるし、江の島らしさを発揮させられると思う。日本のあちこちにあるようなものをここに持ってくるよりも、この良さを見つけることこそ人を引きつける力になると思う。
- ・ 江の島のスケールであると歩いて楽しい島にする必要があるのではないかと思う。
- ・ 狭い道で構わないので、一周できるようなルートを作り上げると、これを一周しに来る人を、近場から、東京からも呼べるのではないかと思う。それが安全上難しいというのであれば、湘南港ともともある江の島を繋ぐルートを増やしてほしい。
- ・ 地元の方にレストランに入ってもらおうとか、お土産屋さん、漁業者が取ってきたお魚やシラスなんかを売ってみたらどうかというお話を島の方にした。それが実現するかどうかはわからないが、地元との融和が必要であると思っている。
- ・ これからの我々の課題としては、湘南港と一体とした江の島の活性化を考えていかないといけない。
- ・ 今後の湘南港のあり方の中で、藤沢市に管理を任せるのかといったことも検討していただきたい。
- ・ マリーナの運営という面から見ると、モーターボートの方が多くないと経営ができない。このようにするには非常にお金がかかるので、湘南港では無理であるが、金銭的にはペイするのは間違いない。
- ・ 基本的なハーバーとしての機能を守っていくのが必要だと思う。学生のヨットスポーツ活動を支援するという面は入れておいてもらいたい。

## 湘南港のあるべき姿 第3回検討懇話会 議事概要

日時：平成15年8月7日(木) PM:2:00~5:00

場所：藤沢市総合防災センター6F 第1会議室

- ・ 少子化と高齢化社会が非常に大きなキーワードである。それを湘南港でどう受け持てるのか、そのような中でアクセスディンギーも1つの手法だと思う。
- ・ 海と親しむ機会と持つということをここで拠点形成をしてやっていくために、子供達のプログラムを考えていきたい。
- ・ 子供達がヨットに乗ったり、岩場のところでいろんな生物を見たり、そういうものを誘致し、国の力をつくってもらうのも一つある。
- ・ 「湘南港」というのはどういうイメージにあるのかと聞くと、金持ちしか行かないんだという意見がほとんどだった。
- ・ パンフレットを駅に置いたりして、遊びに来てくださいとか、駅にポスターを貼るとか。まず、そういう事をやらない限りは、湘南港には普通の人に来ないのではないか。
- ・ 市民に開かれた、県民に開かれた、「海の玄関」そういうイメージをつくっていくか、あるいは宣伝戦略、広報戦略というのが非常に重要だと思う。
- ・ 湘南という言葉、江の島という言葉は、全国的なものであり、非常に恵まれた場所である。
- ・ ヨット利用者の側には金持ちだという意識はないが、一種の特典を享受しているのだという意識がある。ここで利用しているヨットの人達の意識改革も必要だと思う。
- ・ きちんとしたヨットハウスがないと求心力が働かない。日本で有数のヨットハーバーとして機能できるものを整備してもらいたい。
- ・ 地方港湾としての位置づけをまず確立して、ヨットハーバーはサービス業としての看板でやる。漁港エリアの漁船がなくなったときにどうするかまで考えてほしい。
- ・ 女性センターを移転する話があるが、この土地を藤沢市で活用させてもらい、ホテルでも持ってこられないか。せっかくのヨットハーバーで、リゾート地のような感覚もあるので、ホテルなんかがあってもいい。
- ・ 湘南港は、江の島ヨットハーバーというものではなく、島全体を含めたひとつの拠点になっていると思う。
- ・ 旧来の江の島観光とうまくやるのは難しいことである。ヨットハーバーというものの性格を変える方向で行政が動く必要がある。
- ・ 島の人とそこを利用する人とうまくお互いに行き来できる仕掛けが湘南港にできたらいいと思う。ヨットハーバーだけではなく島全体のことを考えてもらいたい。
- ・ これを契機に、若い人達を入れて、江の島と湘南港を考える会、港湾と島の発展を考え市民の健全な利用形態を育むような応援団(NPO)というものが1つの提言としてできればいい。
- ・ いろいろな環境整備上の基金が必要である。湘南、江の島というブランドをどうお金に変えていくか、それを基金として港湾の環境整備、町並みの景観整備、こういうものにどうつなげていくか、ということもあるべき姿の一つの方向性だと思う。
- ・ 遠いところからの観光客も期待するのか、あるいは、地元を基準に据えて検討するのか。
- ・ ツーリズムとしての湘南港の位置づけについてどうしていくのか。色々な海の体験ができる、景色

が非常に素晴らしいタワーができた、富士山を眺めながら、湘南海岸が眺められるなど売り物がたくさんあるので人は来ると思う。

- ・ マリンロード等、海のツーリズムという視点も持ってほしい。
- ・ いつも花が満ち溢れているような、江の島ヨットハーバーというのも1つのイメージだと思う。
- ・ 世界の中の日本の港という視点を緑地計画を含めて港全体でつくりたいといけない。
- ・ 日本のハンドデザインの素晴らしい手法がいくつかあると思う。例えば改修された江の島の遊歩道も日本の昔からのハンドデザインを使った例だと思う。
- ・ 木の植え方でも、遊歩道のラインにでも、日本人の繊細な美意識を反映させるべきである。
- ・ 多少は、西洋のものと東洋のものがまじった島でも良いのではないか。
- ・ 昔ながらの日本の景観かという若干どうなのかなという点がなきにしもあらずである。
- ・ 観光施設として重視するのであれば、植栽にしても何にしても、日本的なものではなく全て外国から取り寄せればよい。この島の旧来のものと一緒にしても無理である。
- ・ 渋滞を解消することが一番大きなことだと思う。お客がスムーズに来られるようにする必要がある。
- ・ シャトルバスを検討するなど、良いシステムを考えて欲しい。
- ・ 歩いて楽しい江の島にすべきだと思う。江の島大橋が無かった時には、砂浜の上を渡り、いつでも行けないというおもしろさがあった。
- ・ 湘南港は緊急物資受入港でもあり、そこに物資を貯めて、それをヘリコプターで持っていくとかなどの、ソフトの対策との両面でやっていく必要がある。色々な手法をネットワークとして持っているということが大事だと思う。湘南港だけでという話ではない。
- ・ 藤沢市では色々なところと協力して、災害時にお互いに援助が行えるようにしている。
- ・ 江の島だけで考えなくても近隣に鎌倉や横浜などがある。江の島だけで考えなくても良い。
- ・ 鉄壁の港というのは変であるが、もっと消波ブロックを入れるとか、先の堤防を伸ばすとかした方が良い。
- ・ 波浪時等の危険区域への立入制限が徹底しきれない事情があるのであれば、自己責任である旨の看板を出すべきである。

## 湘南港のあるべき姿 第4回検討懇話会 議事概要

日時：平成15年10月15日(水)PM:2:00～5:00

場所：湘南港ヨットハウス 2F 会議室

- ・ 観光面としての江の島とヨットハーバーとしての湘南港は、別々になっている。
- ・ ヨットも観光の1つだと思う。2つが一体となった方が江の島全体が盛り上がると思う。
- ・ 江の島に湘南港をつくるにあたって埋立てをしたこと、以前の自然の資源が失われたこと、時代に則した港をつくったかどうか、その辺から紐解いていかないと、将来どうあるべきかと正しい結論が見えてこないのではないか。
- ・ この施設も本来であれば地元の自治会に入らないといけないと思うし、観光協会に参入すべきではないかと思う。そういった交流がないことが、治外法権的な異質的なものとなっていると思う。
- ・ 生涯学習だとか体験学習だとか、大いに結構だと思う。当然その高齢化社会ということが、出てくる。そういうものに対してこれから進展して行かなくてはならない。
- ・ 新しい海洋性レクリエーションをどの程度導入するのか。経営面から見れば一般的なマリーナ機能というのが全く載せられていないのが気になる。
- ・ レジャーヨットを対象とした人達をこの港に集めるというのであれば、江の島全体でやらなければならない。
- ・ 経営の話が一番必要なことだと思う。
- ・ ヨットは見ていると楽しくないので、そこに客を呼ぼうとしても来る人はいない。だからお金をかけて建物なりなんなりをつくる必要がある。
- ・ せっかくセンタープロムナードとかいい施設があるので、もうちょっとどんどん利用してくださいというPRをすれば、増えていくのではないかと思う。もっとみんなが非常に楽しめるような施設をつくる。規制が多いというのが一つの原因ではないかと思う。
- ・ 将来のあるべき姿の中には県の湘南港の管理規定みたいなものを公示するとともに、できないものはなんでできないかという説明責任があると思う。
- ・ 管理の空間がどこまでかということも重要だと思う。湘南港といっても、道路も含めてどこまでなのか、ちょっとわからなかったりするの、情報としてはどこまでかということも出しておく必要がある。
- ・ ワクワクするような楽しさとか、洗練された華やかさとか、そういった雰囲気や湘南港に持ち込みたい。具体化するのには次の段階かもしれないが、具体的には、例えばヨットハーバー全体のソフトで華やかなカラーコーディネートを順次していくとか、ここで気持ちいいのは海の風に吹かれることなので、海の風を視覚として楽しめる仕掛けを導入するというのも良いのではないかと思う。
- ・ シャトルバスを導入する場合、これは日祭日とかGWとかに活動しなければならない。橋の真ん中の中央分離帯をバスやタクシーとか公共的なものの優先地帯にしていけば、なんとか交通渋滞の時にシャトルバスも有効に運行できるのではないか。
- ・ 砂州を渡るという、干潮時だけしか渡れないという、とても面白い自然現象を観光の楽しみに活かすということも面白いと思う。
- ・ 橋のところにバルコニー状に出っ張ったところが数ヶ所あるが、あそこにベンチが置いてあったら、もっと歩く人は増えるのではないか。

- ・ マリンロードというシステムの一体化について、エンジン付のプレジャーボートが泊められないため、宿場町としてここが利用できない。これではマリンロード構想とははずれていると思う。
- ・ プレジャーボートの受け入れについては、漁港がかなり中心的な役割を果たしていくのではないかという気がする。漁港の利用方法というものも、十分に掘り下げて考えていった方がいいのかと思う。マリンロードの件もあり、ビジターのお客が入ってくる。受入先を考えると漁港が重要になってくるのではないかと思う。